

鹿児島の植物

春の七草

植物担当 大屋 哲

「せり,なずな...」と詠まれた春の七草は、一年の健康を願って「七草がゆ」等にして食べられます。春の七草がどんな植物なのか簡単に紹介します。

セリ(セリ科)

名は新芽が競って(せって)でることに由来します。川辺や田んぼ,その周辺の湿った所などに生え,夏の頃,白い小さな花がまとまって咲きます。



ナズナ(アブラナ科)

名の由来は,撫菜(なでな)もしくは愛ずる(めずる)菜からと言われます。畑や田んぼのあぜなど,やや乾いた所に生え,春のころ白い小さな花をつけますが,暖かい所では年中花を咲かせています。



ゴギョウ ハハコグサ(キク科)

ゴギョウはハハコグサのことで,葉や茎の表面に毛が多く,ほおけ立っており,ホオケグサとも言われ,それが転じてハハコグサになったと言われます。畑や乾いた田んぼのあぜなどに生え,4月から8月のころまで黄色の花が茎の上の方にまとまって咲きます。



ハコベ(ナデシコ科)

ハコベラともいわれますが,名の由来は不明です。畑や田んぼのあぜなど,やや湿った所に生えます。2月から10月に白い小さな花を咲かせます。花の形から,学名にはラテン語で星を意味するStellaがつきま



す。

ホトケノザ コオニタビラコ(キク科)

小形のオニタビラコ(田平子)という意味で,田に葉がはりついている様子が名の由来とされています。

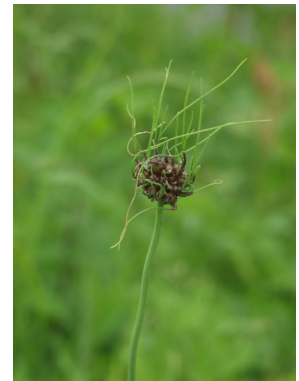


田んぼやその周辺の湿った所などに生え,春の頃に黄色の花を咲かせます。

以下は,鹿児島島の自然環境では,野生種で何が当てはまるのか考えてみました。

スズナ(カブ) ノビル(ユリ科)

ノビルは野に生えるヒルの意味で,ヒルはネギやニンニクなどの総称(食べたらひりひりする)からと言われます。畑や田んぼのあぜなどに生えます。花は初夏のころですが,花が咲かず写真のようにムカゴ(球芽)をつけたままのものもあります。



一般には,スズナはカブのことです。

スズシロ(ダイコン) ヨメナ(キク科)

ヨメナは,「嫁に食わずな」と言われるくらい若芽が美味です。畑や田んぼのあぜ,道ばたなどに普通にみられます。



8月~10月のころまで,うすい紫色の花を咲かせます。

一般には,スズシロはダイコンのことです。

冬の時期に,身近で簡単に入手できる青々とした野草を食べて野菜不足を補っていた昔の人の知恵を感じますね。今年の冬は畑や田んぼで,探してみてもいいでしょうか。